

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年6月12日

予報期間：6月14日～7月13日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本、東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
東日本太平洋側と西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
沖縄・奄美では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

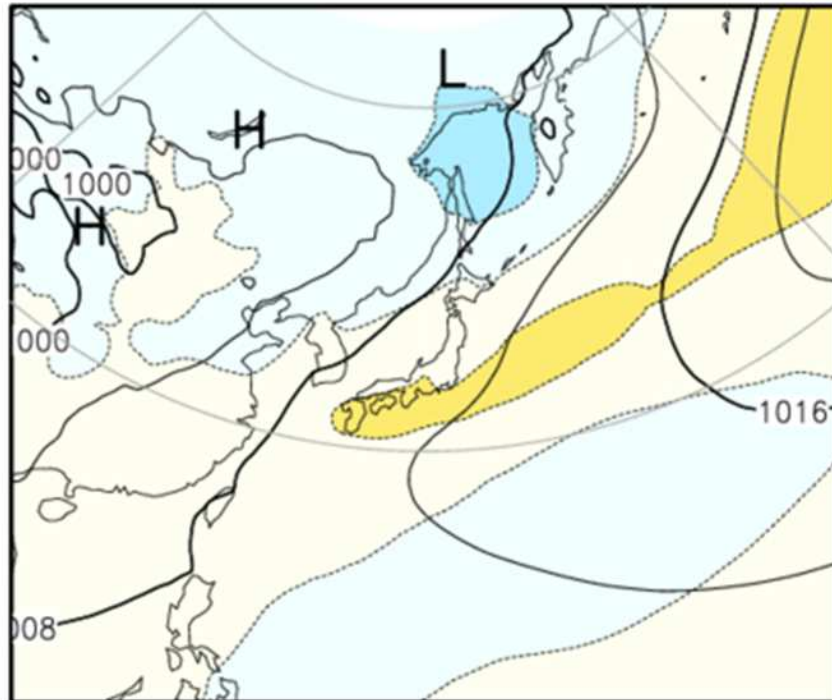
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	20:40:40 30:40:30	40:30:30 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:30:30 40:40:20	30:30:40 20:40:40	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:40:20 40:40:20	20:40:40 20:40:40	
沖縄・奄美		10:20:70	50:30:20	20:30:50	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:40:50
沖縄・奄美	10:20:70	10:30:60	20:30:50

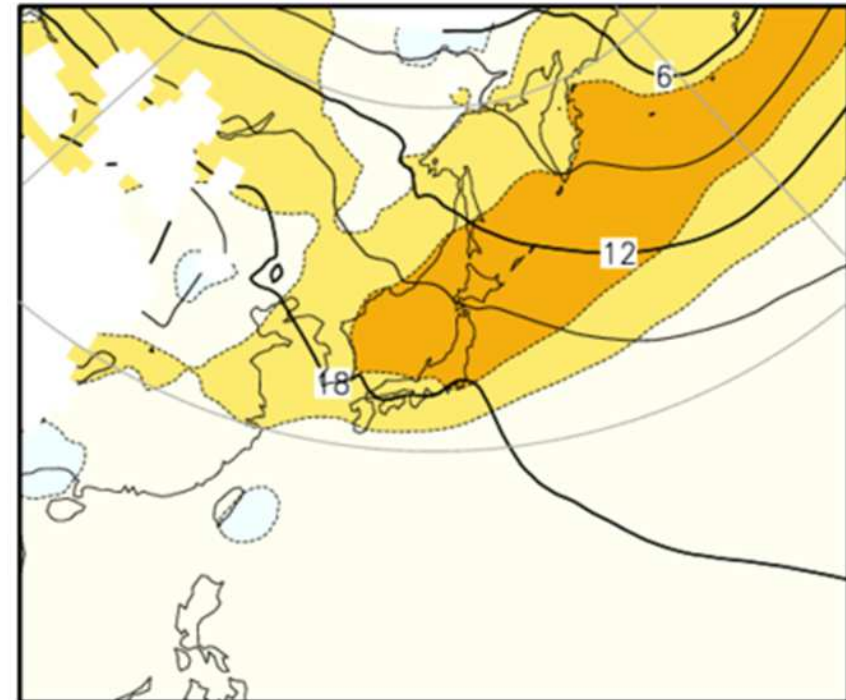
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。北・東・西日本では、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・北日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- ・東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧に覆われる時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込みです。
- ・沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

海面気圧(1か月)



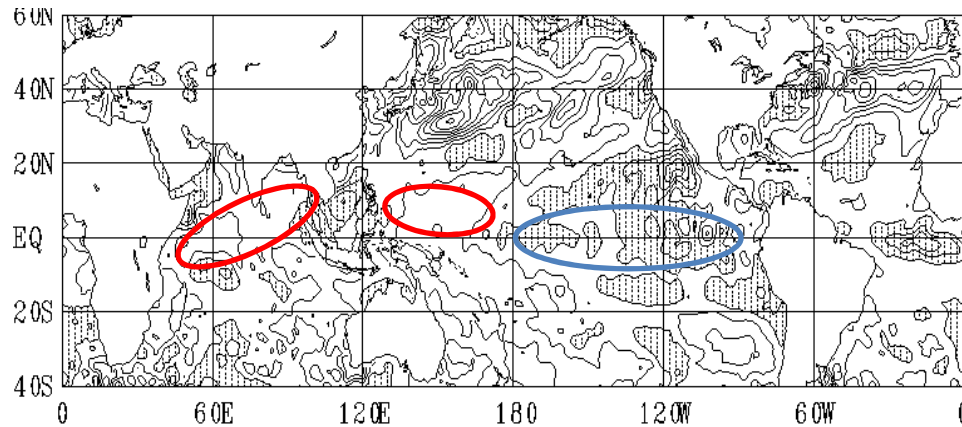
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近から東海上にかけて太平洋高気圧が強く予測されています。一方、中国東北区からオホーツク海付近の気圧は平年より低く予測され、北日本日本海側中心に太平洋高気圧の縁を回る湿った空気が流れ込みやすく、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。

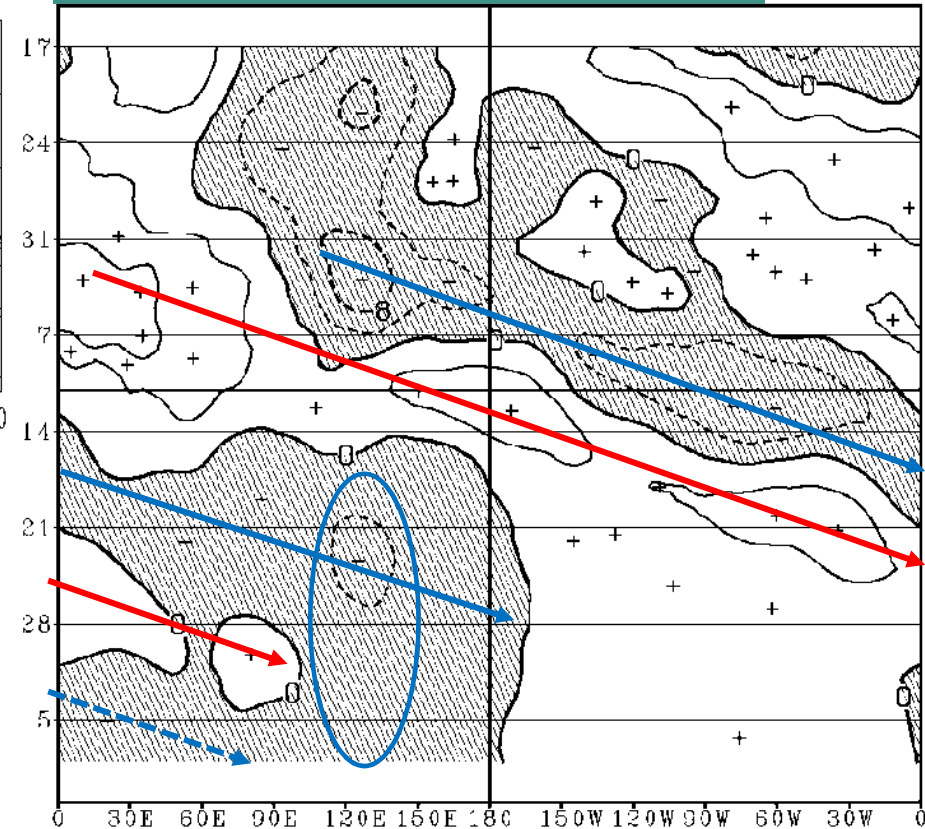
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、太平洋中部から東部で負偏差、インド洋赤道域からベンガル湾、フィリピンの東で正偏差。

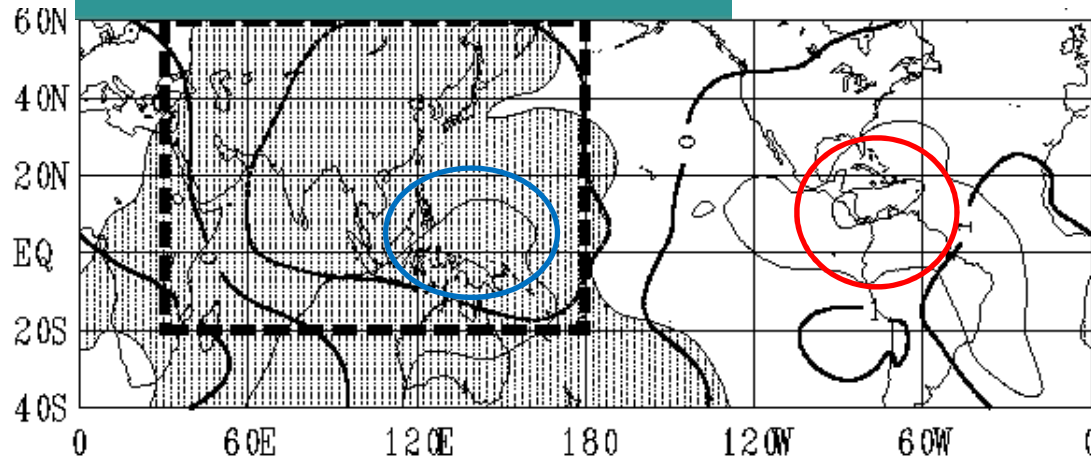
200hPa速度ポテンシャル偏差



実況から2週目にかけて、発散偏差域(対流活発域)が太平洋東部からインドネシア付近に東進。収束偏差域(対流不活発域)が太平洋中部からインド洋に東進。インドネシア付近で発散偏差(対流活発)が持続。

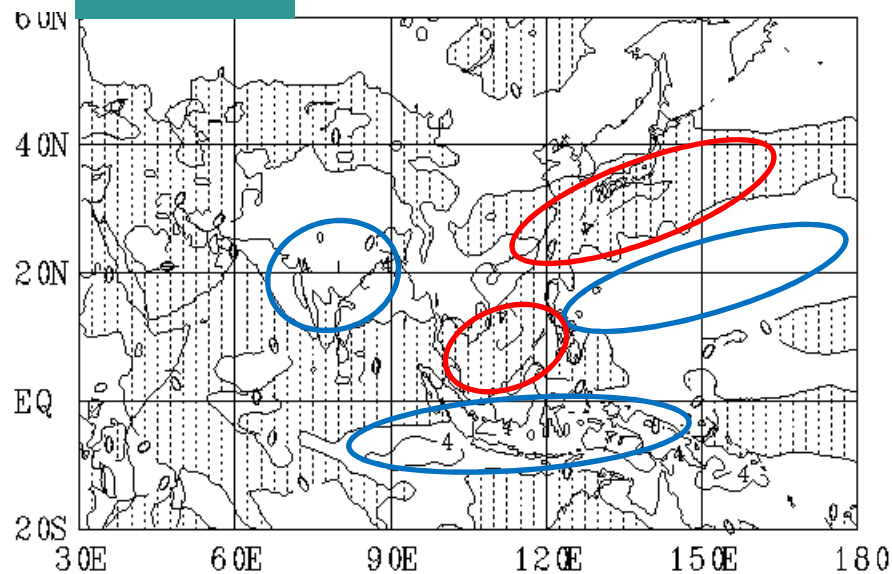
予報資料の解釈 1か月(6/14~7/11)

200hPa速度ポテンシャル



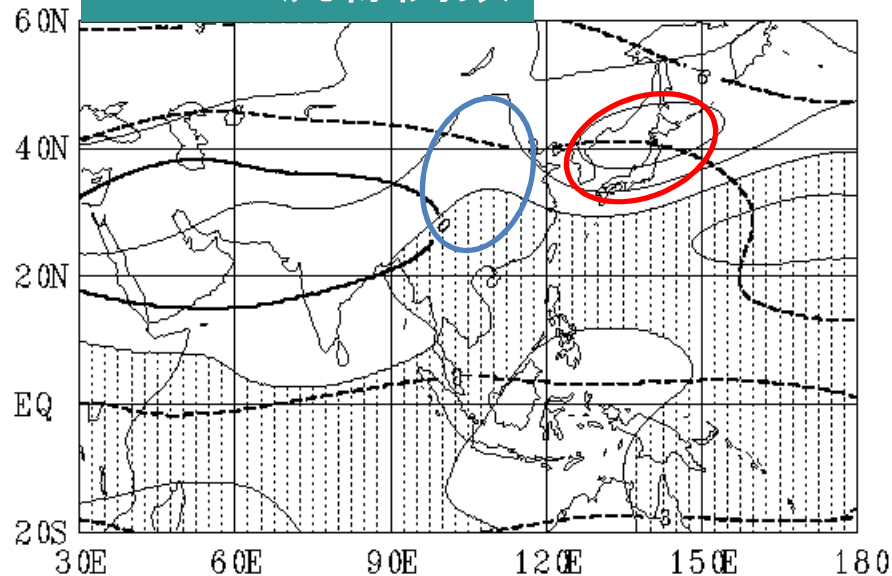
熱帯域では、中米付近で上層収束偏差の一方、インドネシア付近からフィリピンの東で上層発散偏差。

降水量



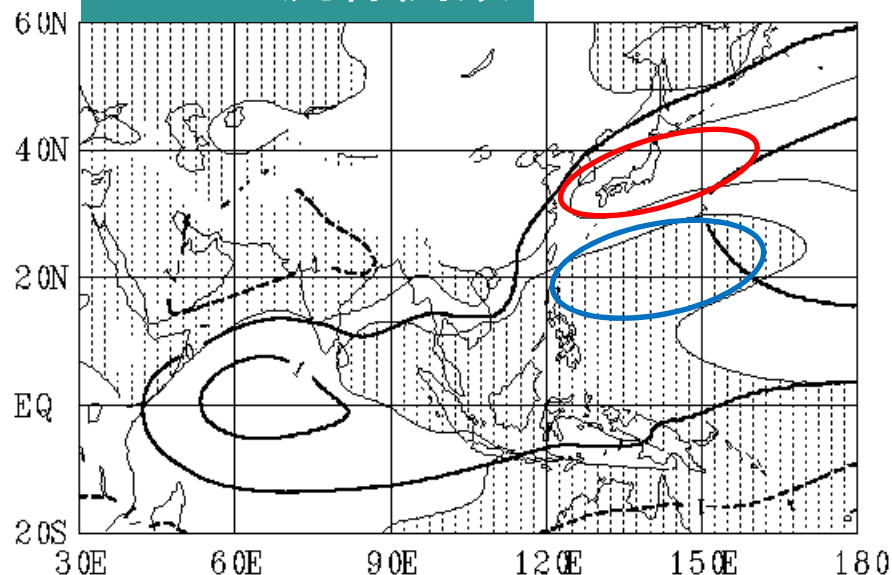
インド付近、インドネシア付近、フィリピンの東海上で多雨偏差、南シナ海で少雨偏差で、SST偏差の影響がある。日本付近から南海上も少雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播や熱帯の対流活動の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の北側で対流活動が活発な影響もあり、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上で北偏。

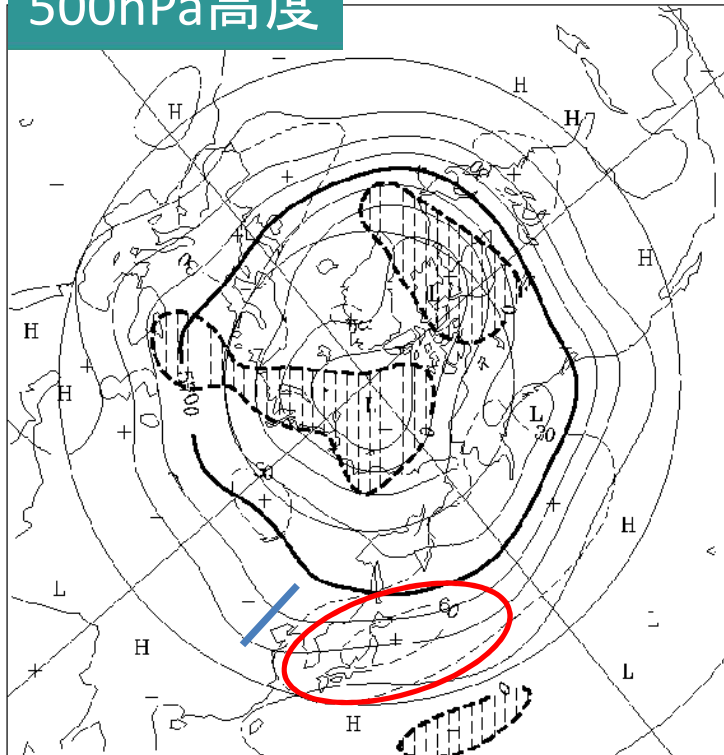
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、フィリピンの東海上で低気圧性循環偏差。また、日本付近で高気圧性循環偏差。これらの偏差パターンには、フィリピンの東海上の対流活動が関係しているとみられる。

予報資料の解釈 1か月(6/14~7/11)

500hPa高度

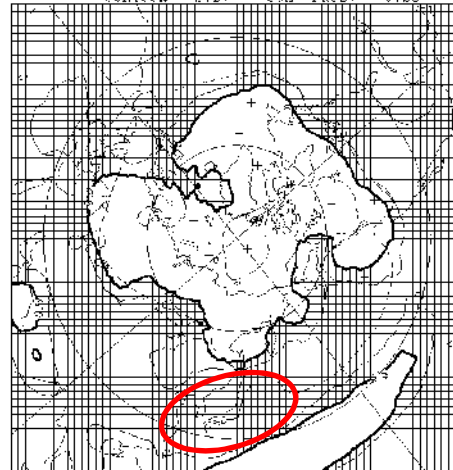
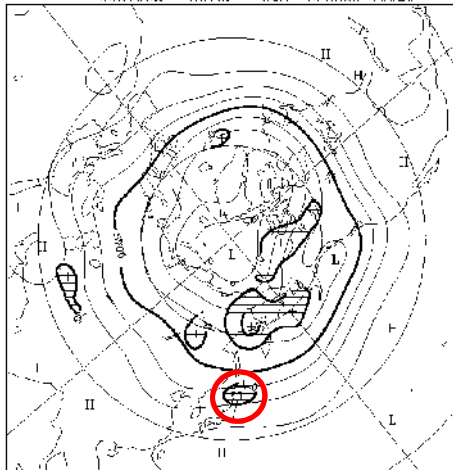


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

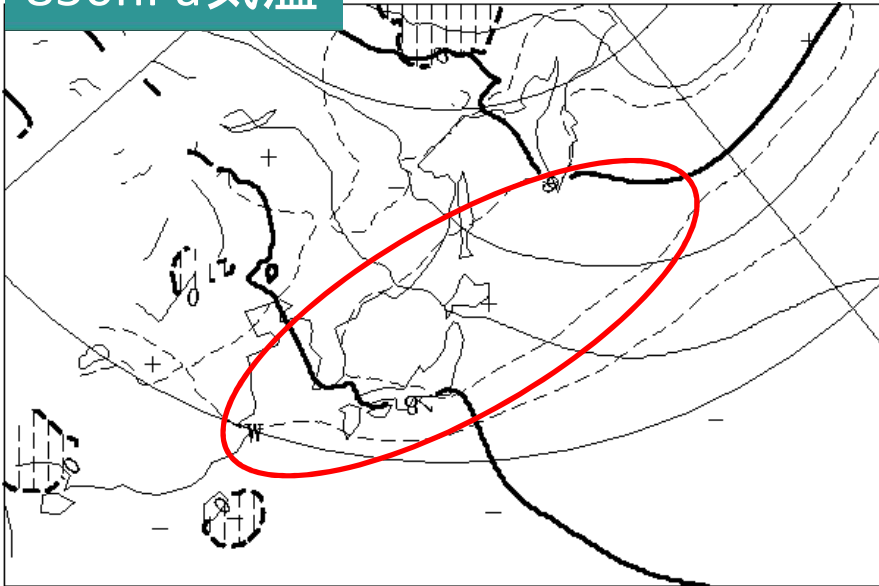


日本付近を含む、太平洋中緯度帯で明瞭な正偏差。華北付近にトラフがある。

日本を含む広い範囲で正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。北日本にスプレッドの大きい領域が見られる。

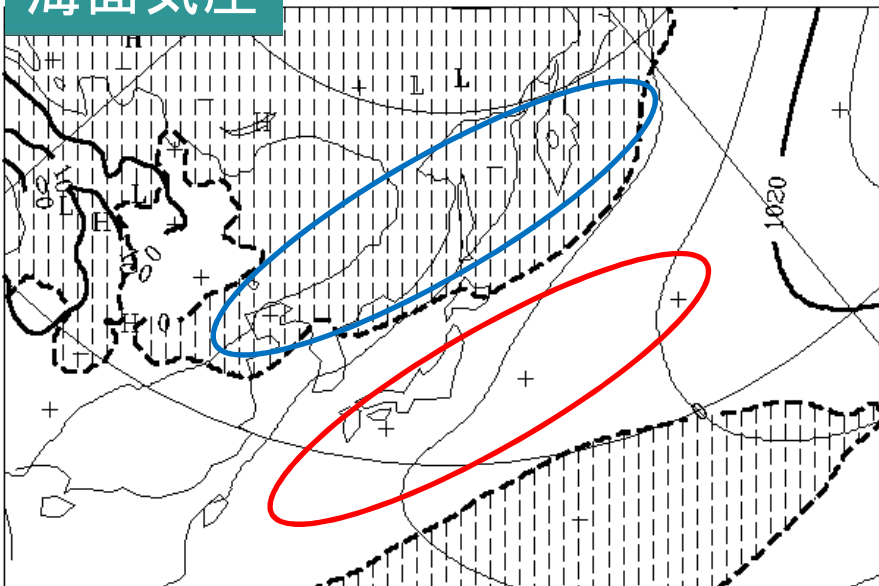
予報資料の解釈 1か月(6/14~7/11)

850hPa気温



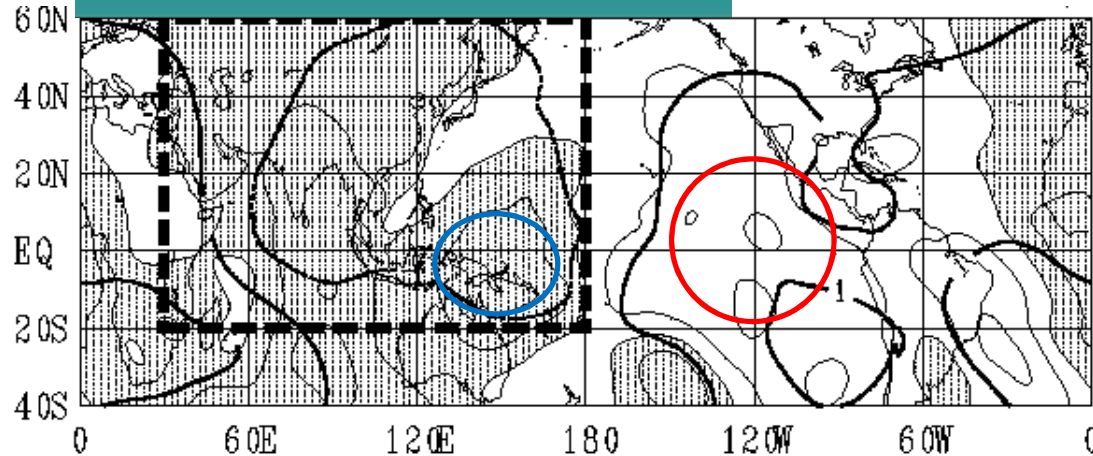
日本付近は北日本を中心に全国的に正偏差域に覆われる。

海面気圧



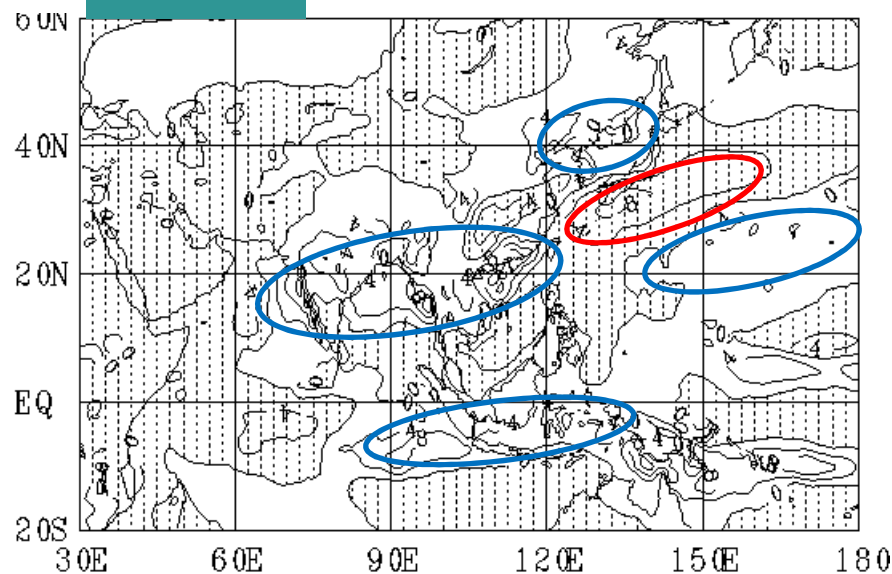
日本付近から東にかけて太平洋高気圧が強い。一方、中国東北区からオホーツク海にかけて負偏差。期間の前半中心に、太平洋高気圧の縁を回って北日本日本海側中心に湿った空気が流れ込み、前線や低気圧の影響を受けやすい時期がある。一方、東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



太平洋東部で上層収束偏差、
インドネシア付近で上層発散
偏差。

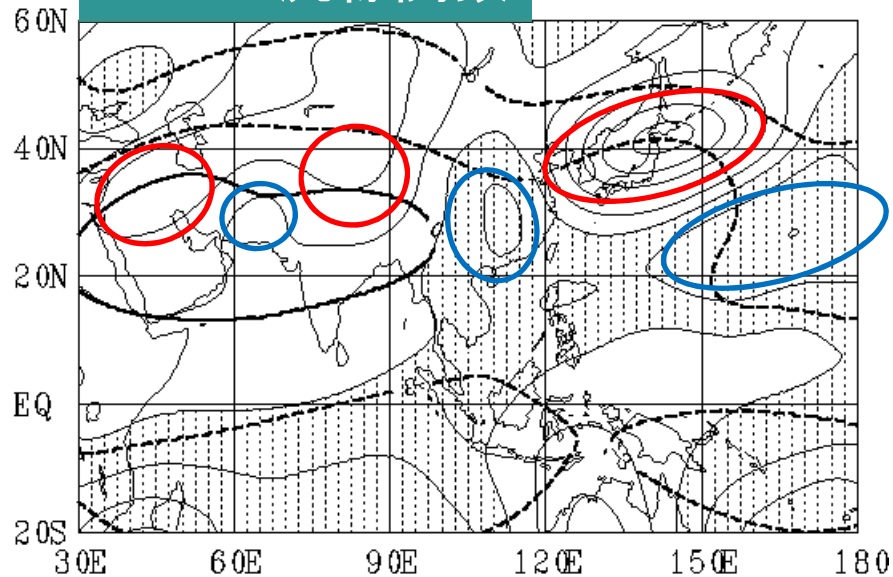
降水量



南鳥島近海、インドネシア付近、
インドから華南で多雨偏差。日
本の南で少雨偏差、日本海で
多雨偏差。太平洋高気圧の強
まりと梅雨前線が活発化する
時期があることに対応。

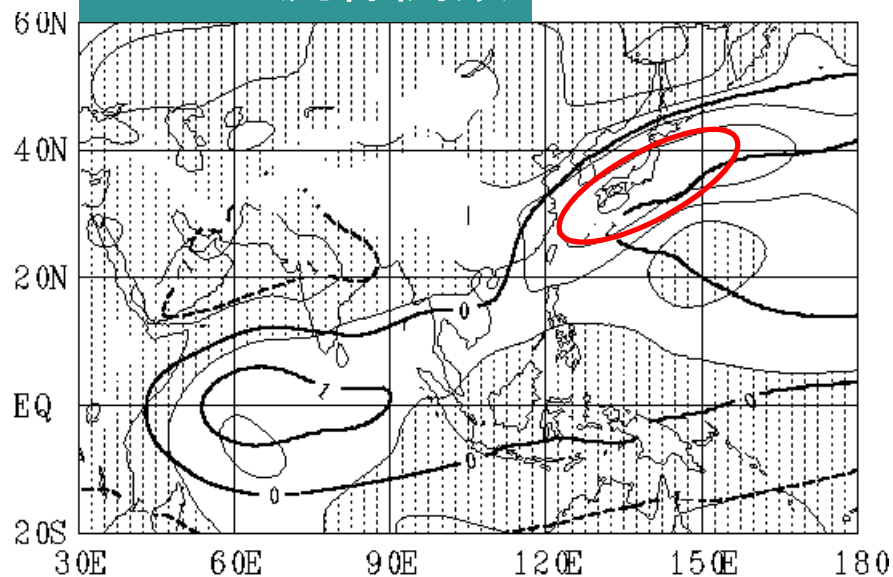
予報資料の解釈 1週目(6/14~6/20)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播がみられ、その一環として日本付近は高気圧性循環偏差。日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

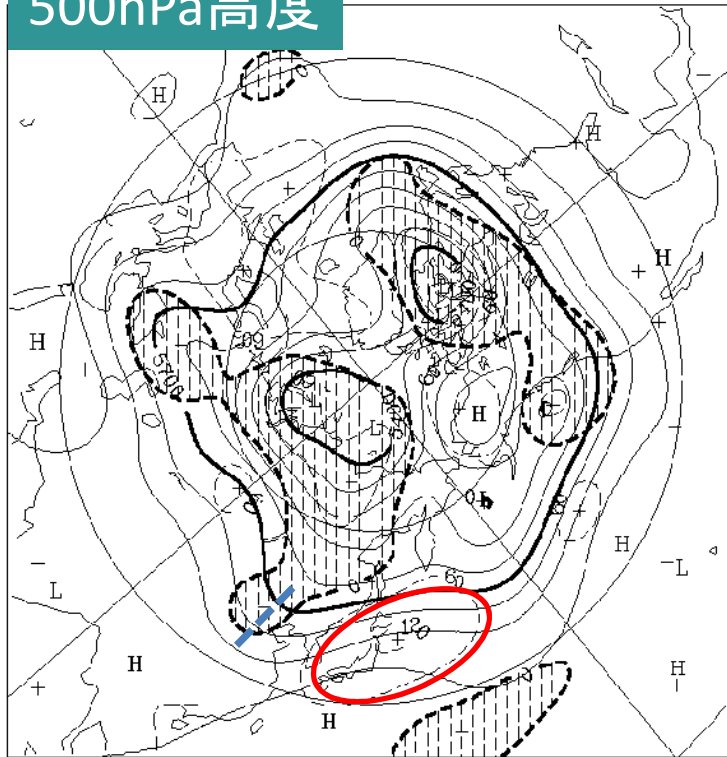
850hPa流線関数



日本付近は高気圧性循環偏差で、偏差の中心は本州の南で、上層の高気圧性循環偏差と対応した順圧的な高気圧。

予報資料の解釈 1週目(6/14~6/20)

500hPa高度

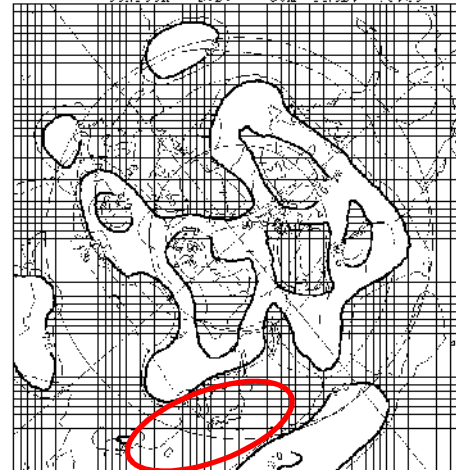
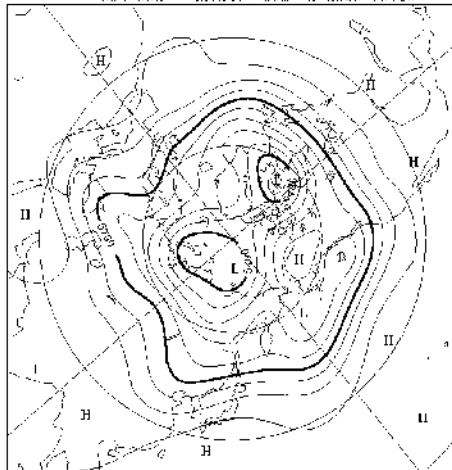


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

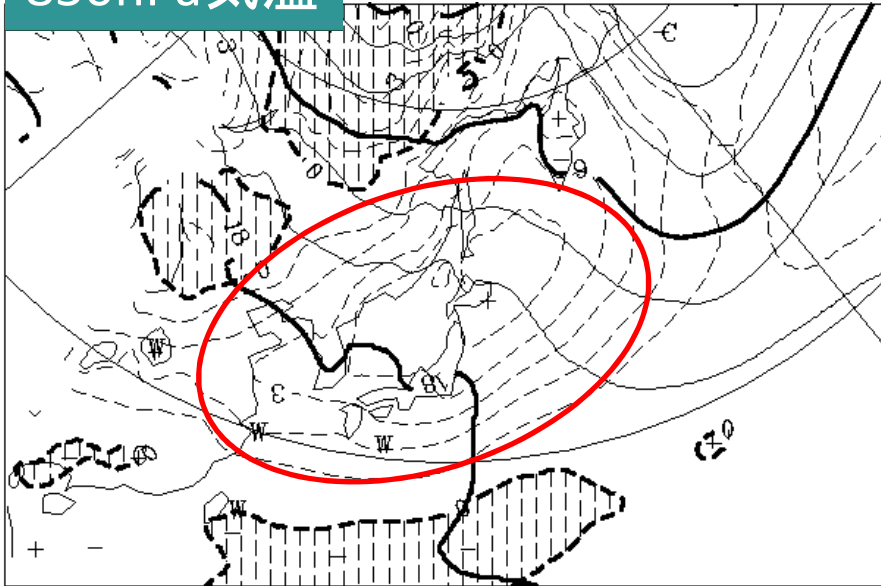
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



日本付近は正偏差で偏差の中心は北日本の東。中国東北区付近にトラフで日本付近は西南西の流れ。亜熱帯高気圧が西日本に張り出す。日本付近は広く正の高偏差確率75%以上の領域に覆われている。

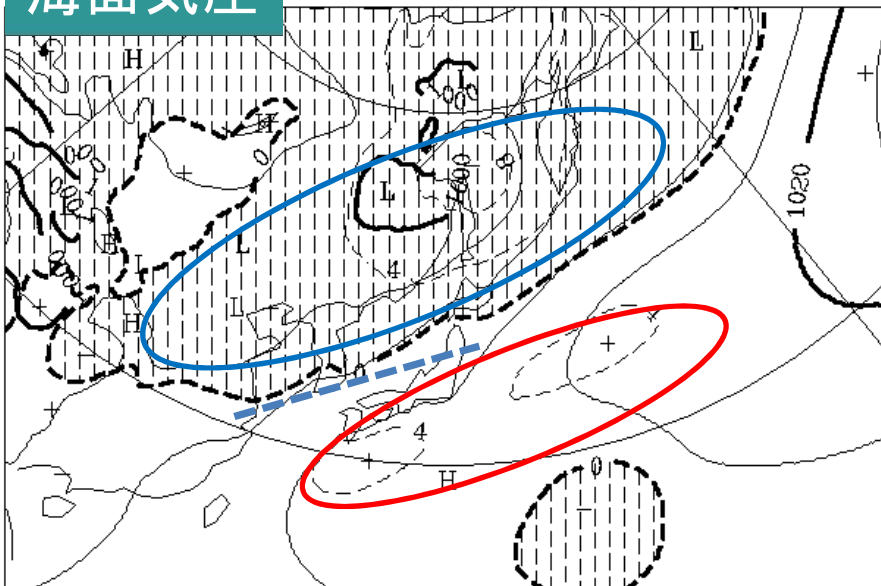
予報資料の解釈 1週目(6/14～6/20)

850hPa気温



日本付近は顕著な正偏差域に覆われている。

海面気圧



日本の南で太平洋高気圧が強い。一方、オホーツク海を中心に負偏差。梅雨前線帯は日本海沿岸付近で、梅雨前線帯に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

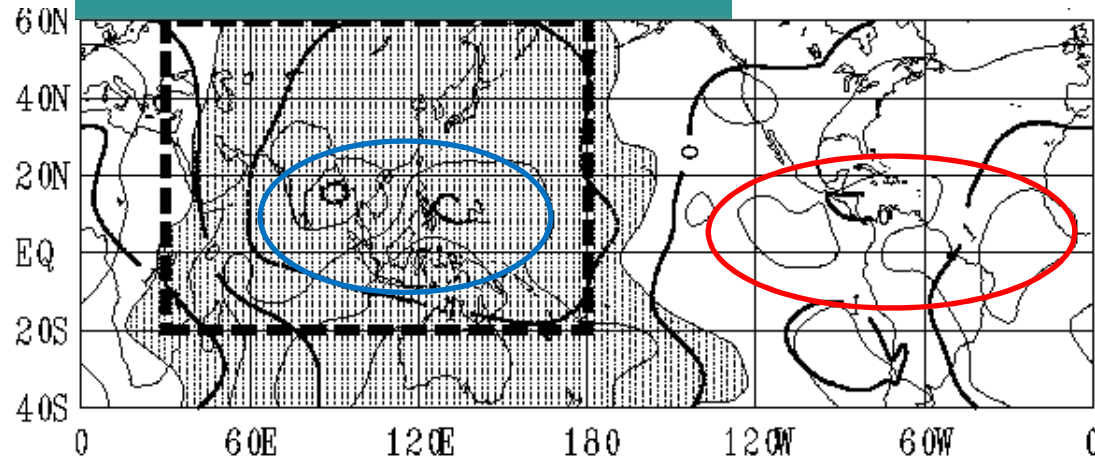
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすいため高温で、北・東・西日本ではかなりの高温。

<天候>

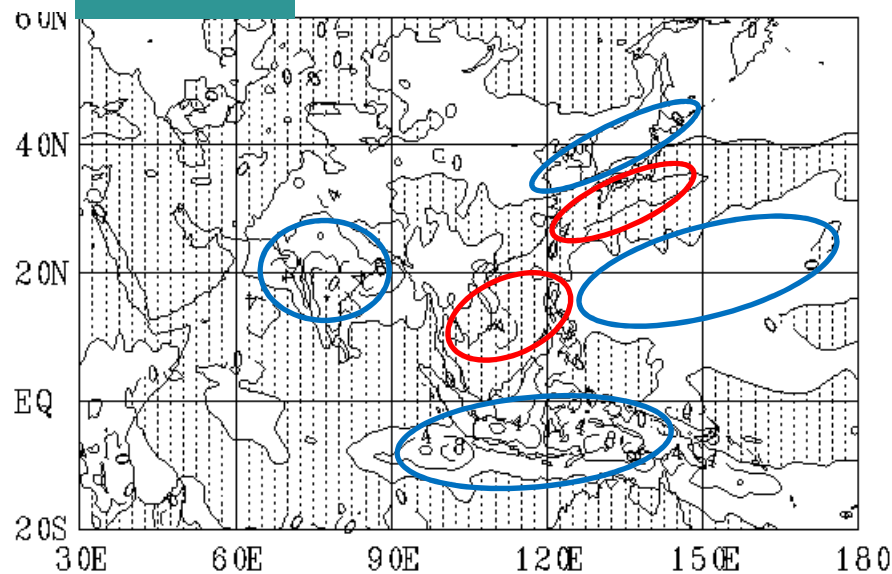
- ・ 北・東・西日本では平年と同様。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、少雨・多照。

200hPa速度ポテンシャル



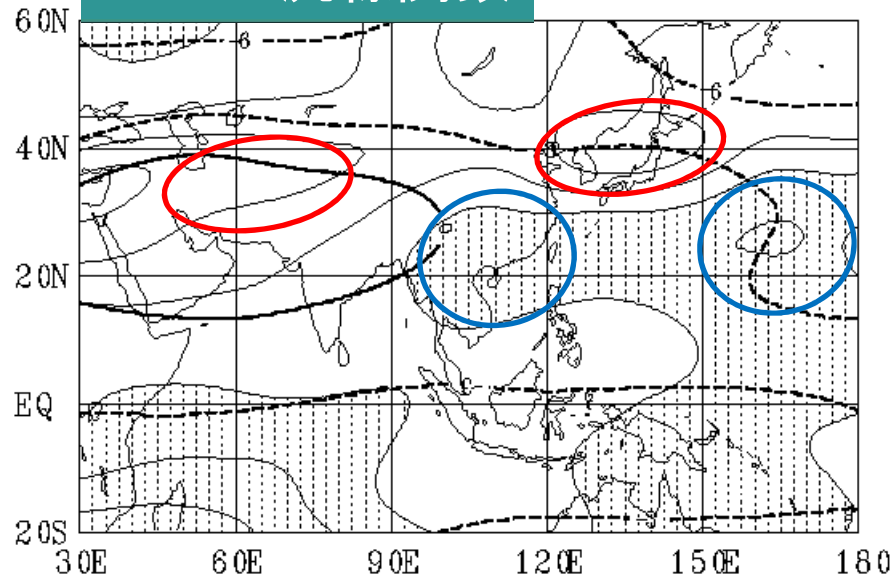
ベンガル湾から太平洋西部で上層発散偏差、太平洋東部から大西洋で上層収束偏差。

降水量



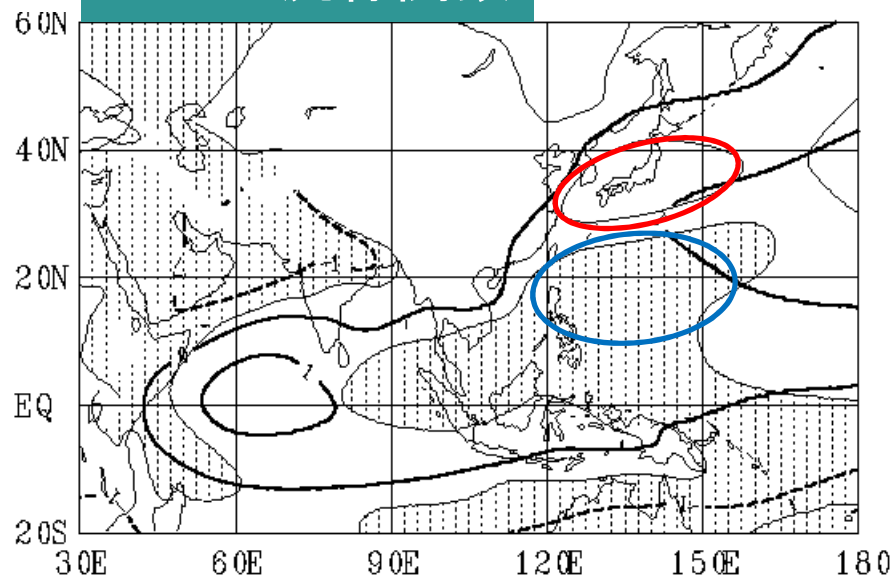
インド付近、インドネシア付近、フィリピンの東海上で多雨偏差、南シナ海、日本の南で少雨偏差、日本海から北日本で多雨偏差。

200hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、中央アジアで高気圧性循環偏差、中国南東部で低気圧性循環偏差、日本付近では高気圧性循環偏差。また、日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

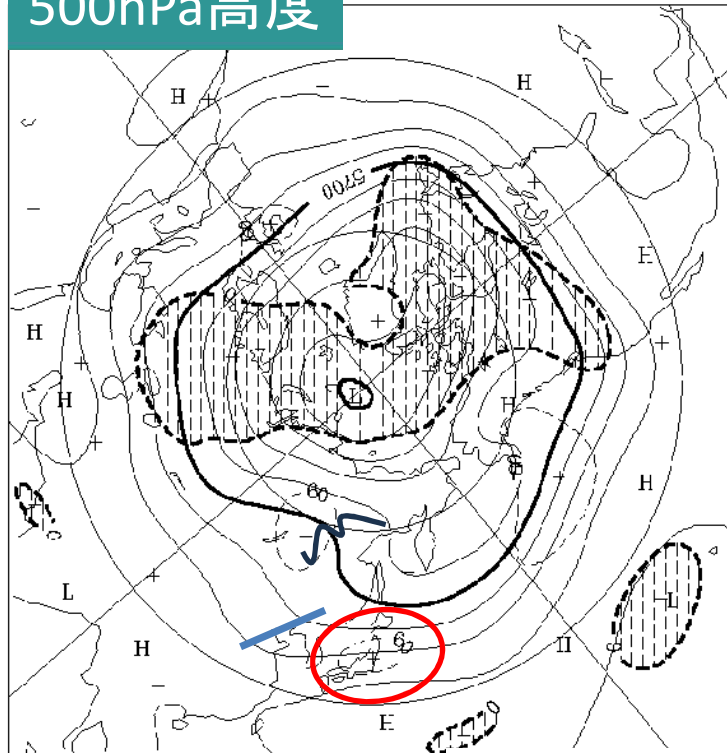
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、フィリピン付近からその東方海上にかけて低気圧性循環偏差。本州付近は高気圧性循環偏差で順圧的な高気圧。この高気圧の形成には、フィリピンの東海上の対流活動の影響もあるとみられる。

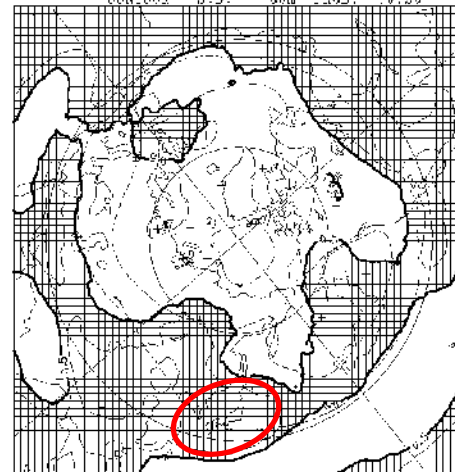
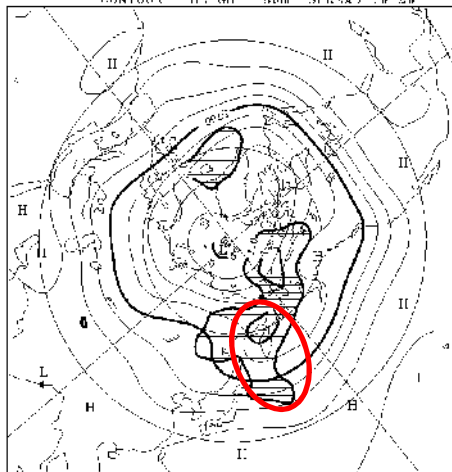
予報資料の解釈 2週目(6/21~6/27)

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

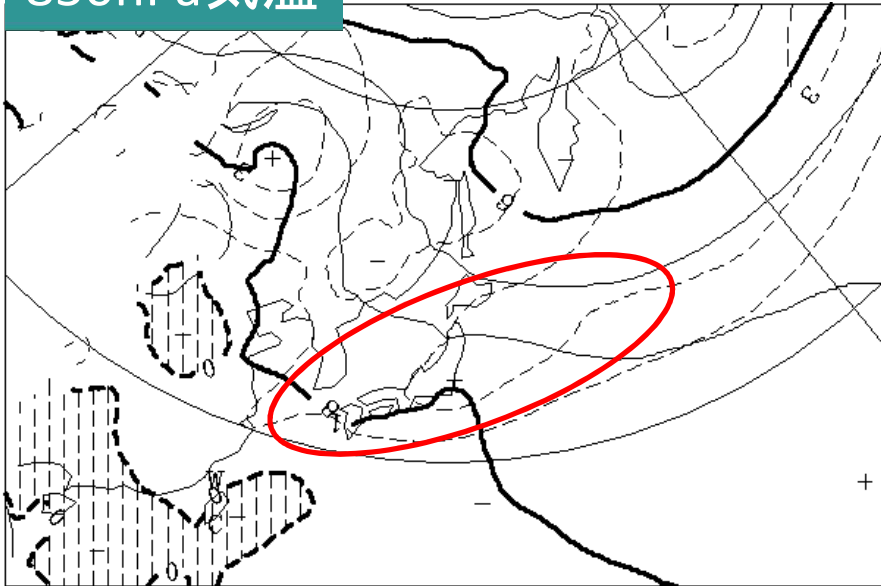
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



日本付近では、リッジ場となり正偏差で、偏西風が北に蛇行して流れる。また、華北付近はトラフ。バイカルの北東でリッジが明瞭となり、その東側でスプレッドが大きくなる。

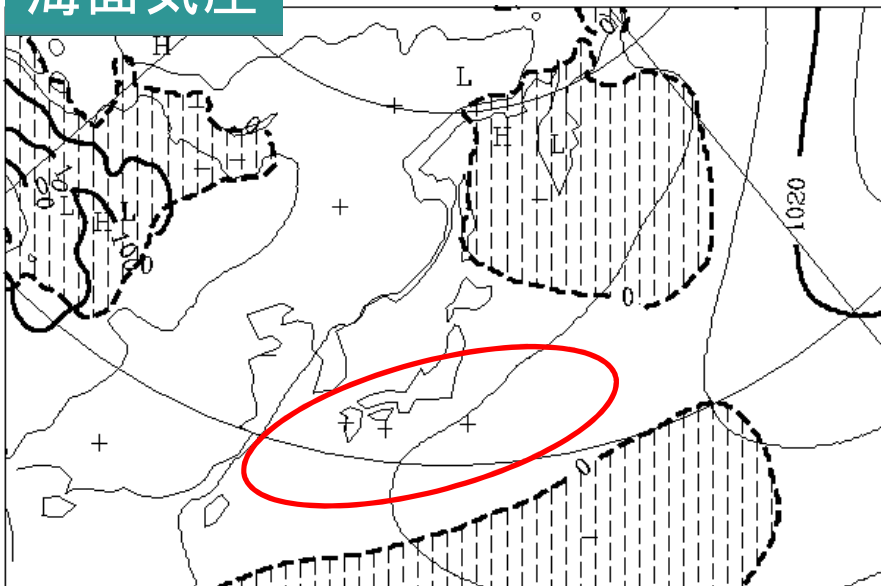
日本付近は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



日本付近は東海上から延びる正偏差域に覆われる。

海面気圧



日本付近から東海上にかけて太平洋高気圧が強い。梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれは不明瞭だが、日本海から北日本付近に位置するとみられる。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすいため高温で、北・東・西日本ではかなりの高温。

<天候>

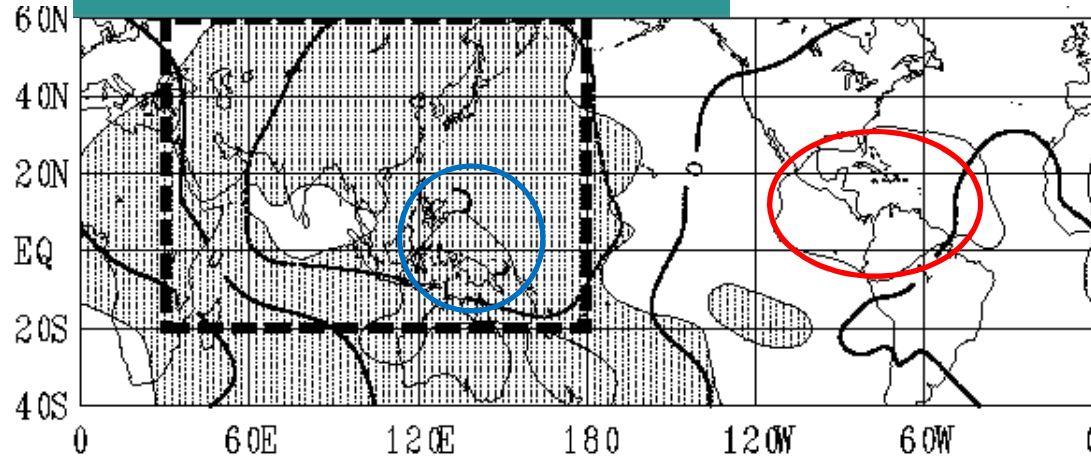
北日本太平洋側と東日本日本海側では、平年と同様。

北日本日本海側は、低気圧や前線の影響を受けやすいため、多雨傾向。

東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、少雨傾向で多照傾向。

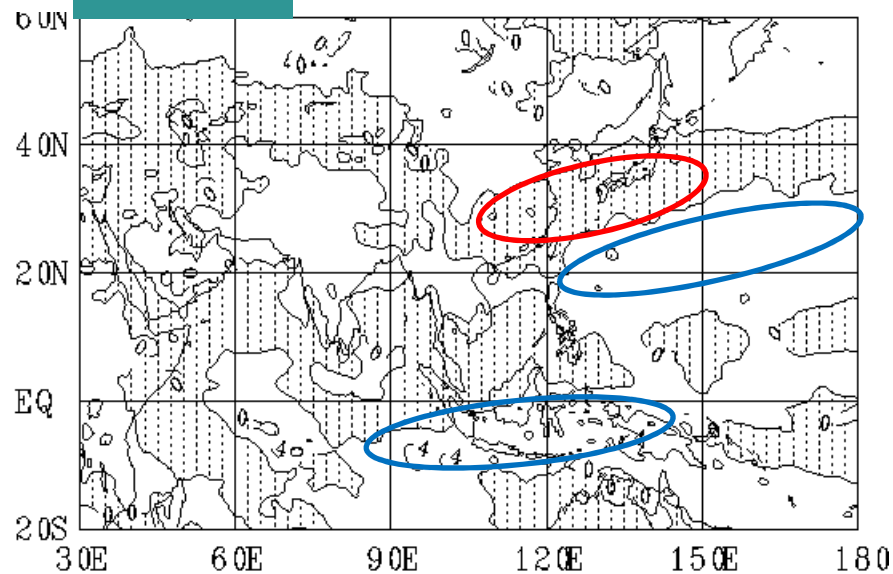
沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われるため、少雨傾向で多照。

200hPa速度ポテンシャル



インドネシア付近からフィリピンの東海上にかけて上層発散偏差、太平洋東部から中米で上層収束偏差。

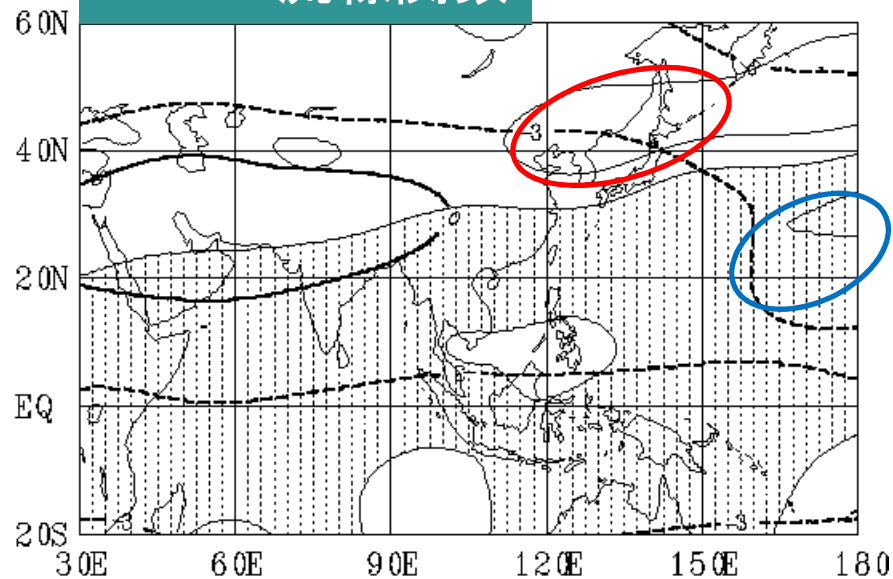
降水量



インドネシア付近、フィリピンからその東方海上にかけて多雨偏差。中国南東部から日本付近にかけて少雨偏差、梅雨前線帯の北上バイアスと弱化バイアスに留意。

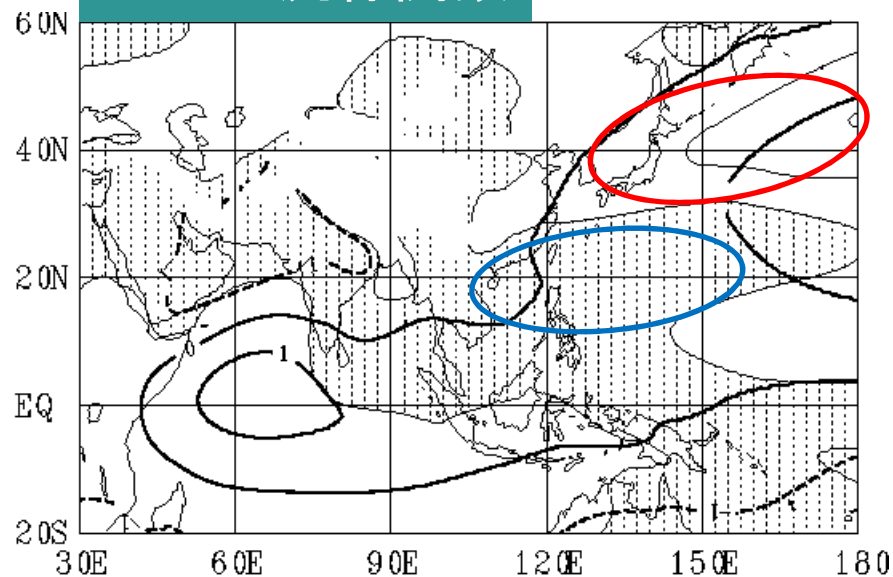
予報資料の解釈 3～4週目(6/28～7/11)

200hPa流線関数



日本付近は高気圧性循環偏差。一方、その南東は低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上にかけて北偏。

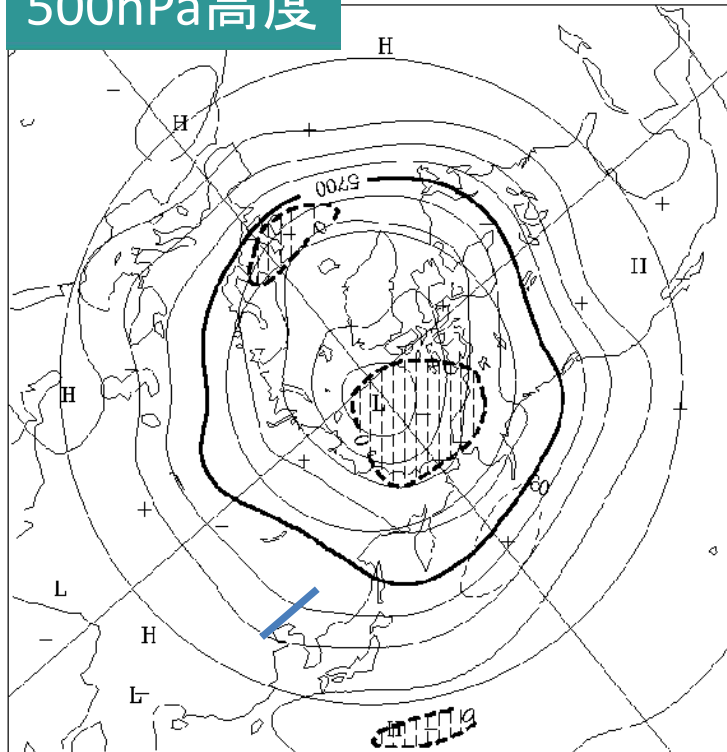
850hPa流線関数



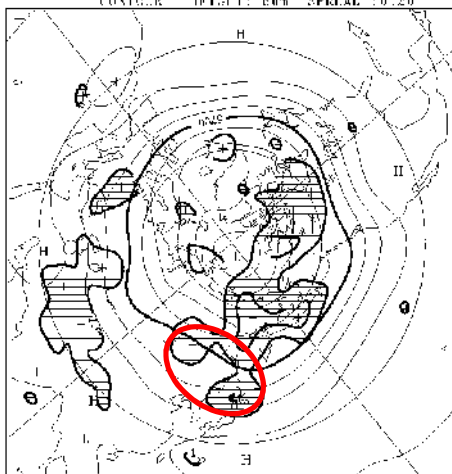
南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて低圧性循環偏差。日本付近から東海上にかけて高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 3～4週目(6/28～7/11)

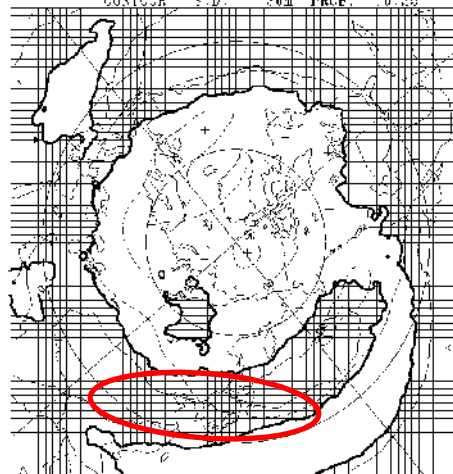
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



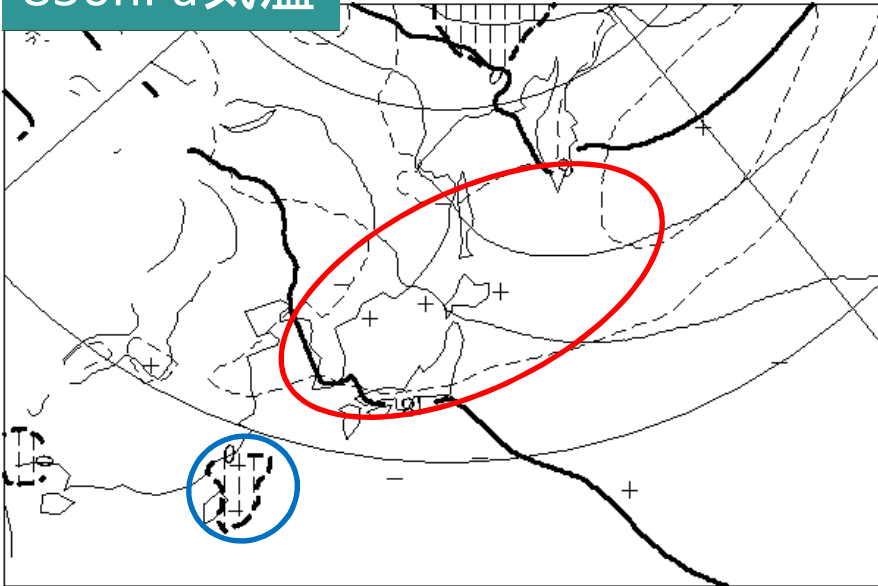
PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.



極域を除き、ほぼ北半球全域で正偏差。中国東北区付近にトラフがある。

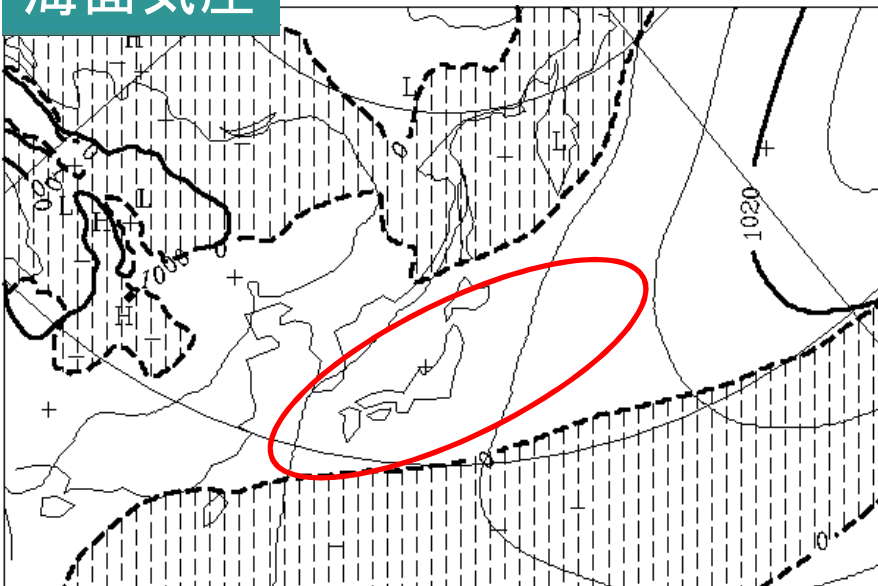
本州付近は、ほぼ全国的に東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。北日本付近とその上流側および北側でスプレッドが大きくなっており、ジェット気流上の波束伝播に不確実性が大きいとみられる。

850hPa気温



日本付近は北日本中心にほぼ全国的に正偏差。沖縄地方の一部に負偏差がみられる。

海面気圧



日本付近は太平洋高気圧に覆われる予測となっている。ただし、太平洋高気圧の北への張り出しを強め、梅雨前線帯の位置の北偏、温度や相当温位の南北の傾きを弱く予測するモデルのバイアスに留意。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

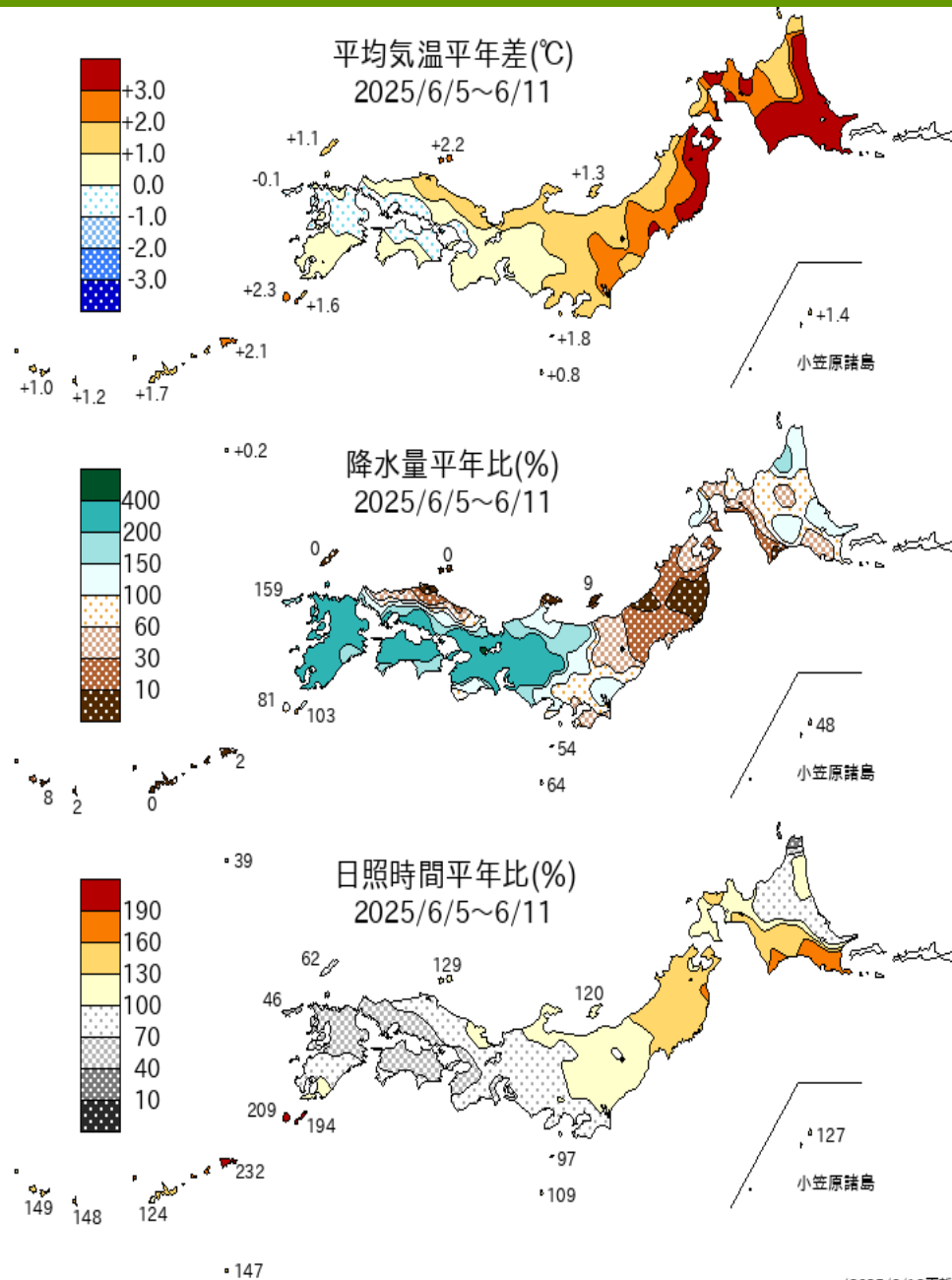
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温。

<天候>

全国的に平年と同様。

最近1週間の天候経過



最近1週間(6月5日～6月11日)は、北日本では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回った所が多くなりました。東・西日本では、はじめ高気圧に覆われ晴れましたが、その後は梅雨前線の影響で曇りや雨となり、西日本で大雨となった所がありました。9日には鹿児島県で線状降水帯が発生し、記録的な大雨となりました。このため、降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回った所が多くなりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れたため、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回りました。気温は、暖かい空気に覆われたため、全国的に平年を上回りました。